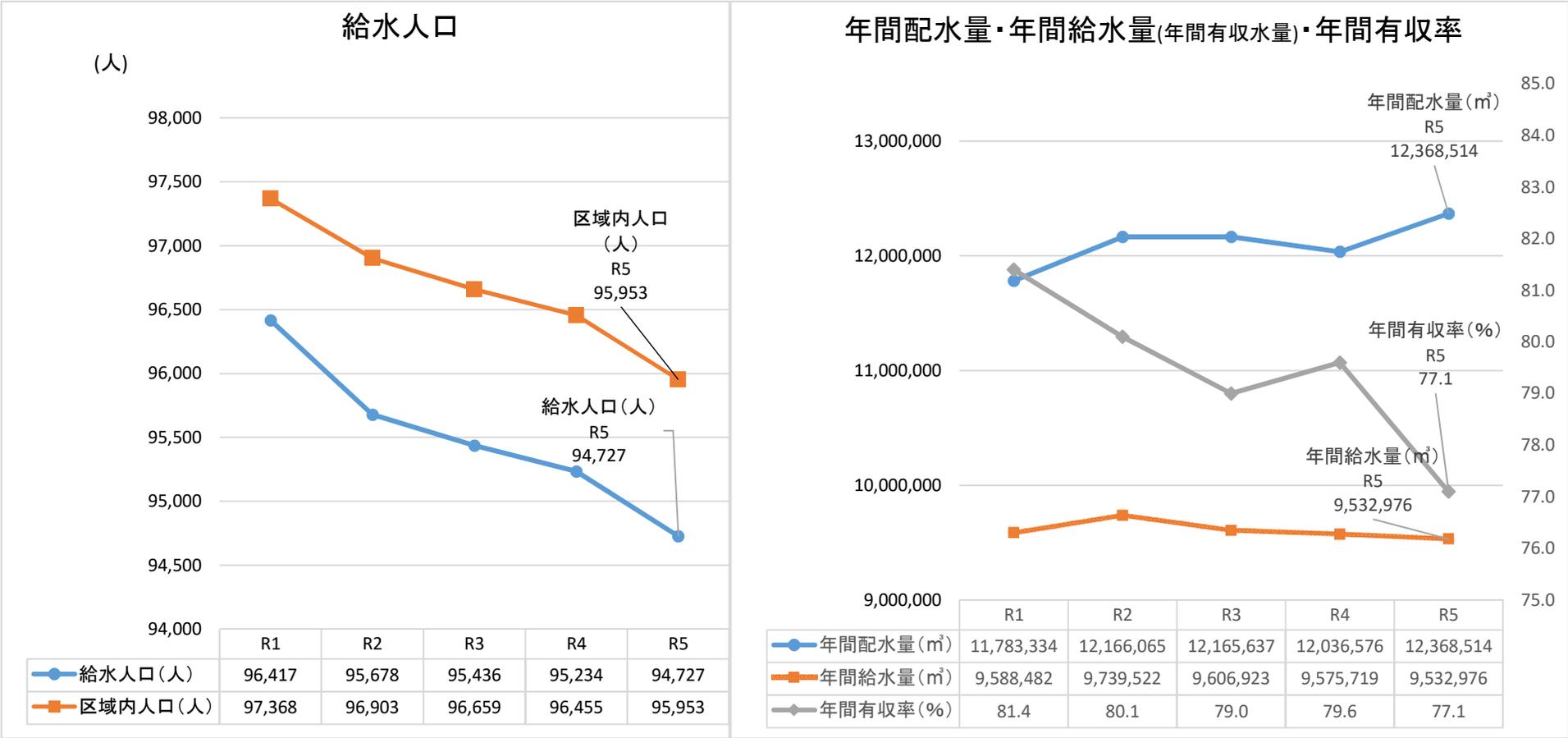


# 令和5年度 安曇野市上下水道事業 決算概要

## I 水道事業決算概要

### 1 業務量 (決算書 23ページ)



## 2 収益的収支（損益計算書）（決算書 4～5ページ、23ページ、26～29ページ）

水道水を作り、みなさまへお届けするための収支状況です。

水道水がどのくらい売れて、その水道水を供給するまでにどのくらいの費用がかかっているのかを表しています。

（千円）※消費税抜き

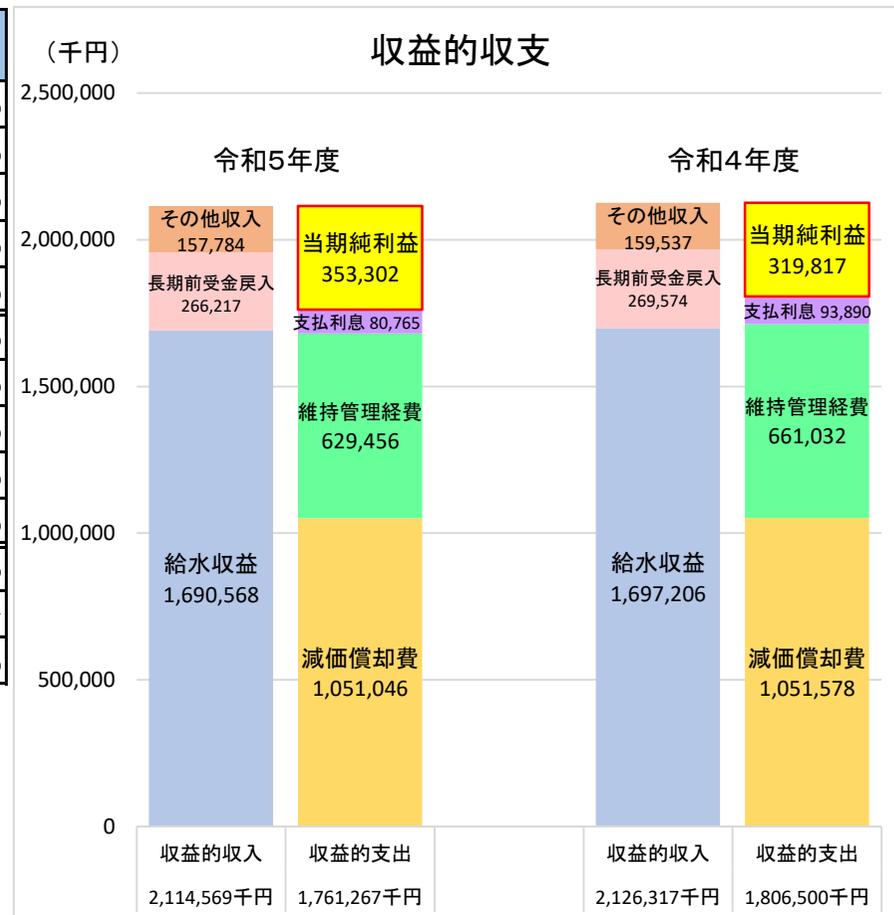
| 収益的収支     | 令和5年度     | 令和4年度     | 増減       | 増減率      |
|-----------|-----------|-----------|----------|----------|
| 営業収益      | 1,785,681 | 1,854,513 | △ 68,832 | △ 3.71%  |
| うち給水収益    | 1,690,568 | 1,697,206 | △ 6,638  | △ 0.39%  |
| 営業外収益     | 328,888   | 271,804   | 57,084   | 21.00%   |
| うち長期前受金戻入 | 266,217   | 269,574   | △ 3,357  | △ 1.25%  |
| 収益計①      | 2,114,569 | 2,126,317 | △ 11,748 | △ 0.55%  |
| 営業費用      | 1,677,735 | 1,710,898 | △ 33,163 | △ 1.94%  |
| うち減価償却費   | 1,051,046 | 1,051,578 | △ 532    | △ 0.05%  |
| うち資産減耗費   | 6,474     | 5,782     | 692      | 11.97%   |
| 営業外費用     | 83,532    | 95,602    | △ 12,070 | △ 12.63% |
| 費用計②      | 1,761,267 | 1,806,500 | △ 45,233 | △ 2.50%  |
| 経常損益①-②   | 353,302   | 319,817   | 33,485   | 10.47%   |
| 特別損益      | 0         | 0         | 0        | -        |
| 純損益       | 353,302   | 319,817   | 33,485   | 10.47%   |

損益では、総収益が21億1,456万9千円で、総費用は17億6,126万7千円となり、純損益は3億5,330万2千円の黒字で、前年度に比べ3,348万5千円増加となりました。

収益は、前年度と比較して収益全体では1,174万8千円減少となりました。給水人口の減少に伴う料金収入の減少が主な原因と考えられます。

なお、一般会計負担金の取扱いを営業収益から営業外収益に組み換えたため、それぞれの勘定科目が増減しました。

費用は国の電気価格激変緩和対策事業により動力費が減少したことを主な原因として、全体で4,523万3千円減少したため、純損益は増加となりました。



### 3 資本的収支 (決算書 2～3 ページ)

水道施設の整備と企業債償還を行うための収支状況です。

(千円) ※消費税込み

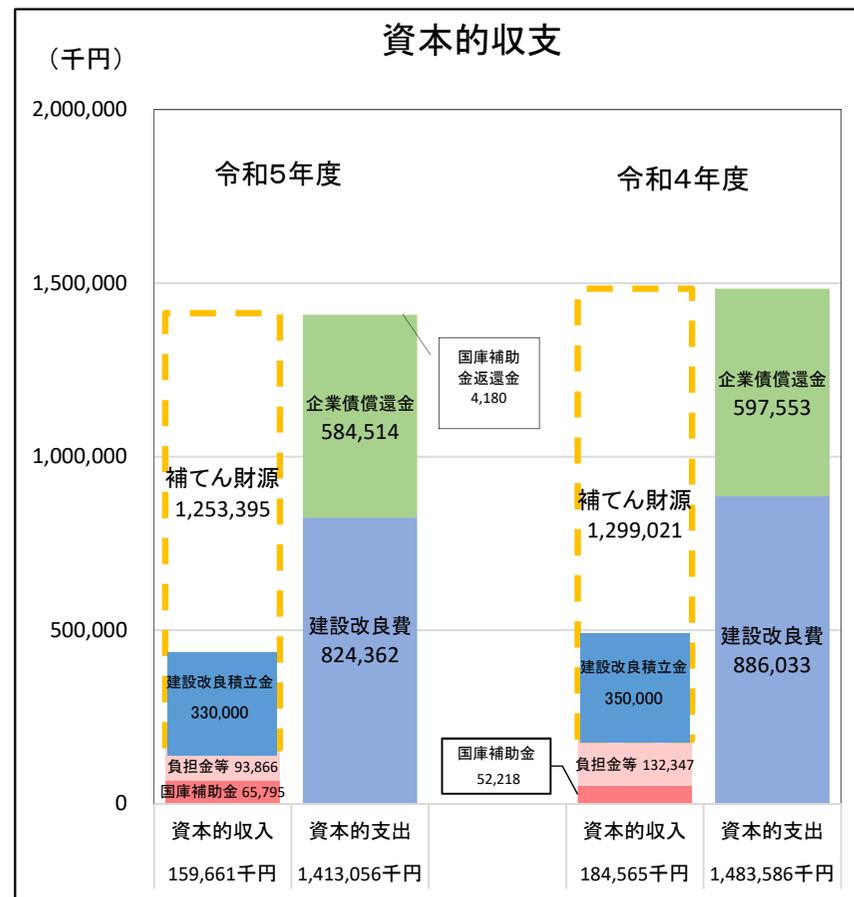
| 資本的収支              |              | 令和5年度       | 令和4年度       | 増減       | 増減率      |
|--------------------|--------------|-------------|-------------|----------|----------|
| 資本的収入 (a)          |              | 159,661     | 184,565     | △ 24,904 | △ 13.49% |
|                    | うち企業債        | 0           | 0           | 0        | -        |
| 資本的支出 (b)          |              | 1,413,056   | 1,483,586   | △ 70,530 | △ 4.75%  |
|                    | うち企業債償還金     | 584,514     | 597,553     | △ 13,039 | △ 2.18%  |
| 資本的収支不足額 (a) - (b) |              | △ 1,253,395 | △ 1,299,021 | 45,626   | △ 3.51%  |
| 上記補てん財源            | 消費税資本的収支調整額  | 117,621     | 63,246      | /        |          |
|                    | 損益勘定留保資金(※1) | 805,774     | 885,775     |          |          |
|                    | 建設改良積立金      | 330,000     | 350,000     |          |          |

資本的収入は1億5,966万1千円で、前年度より2,490万4千円減少しました。

これは、移転工事等の負担金の減少によるものです。資本的支出は14億1,305万6千円で、補償工事の繰越等により前年度より7,053万円減少しました。収支差引で不足する12億5,339万5千円は、損益勘定留保資金8億577万4千円、建設改良積立金3億3千万円の取り崩しなどで補てんしました。

(※1) 損益勘定留保資金

施設の減価償却費など現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金



#### 4 貸借対照表 (決算書 8～9ページ)

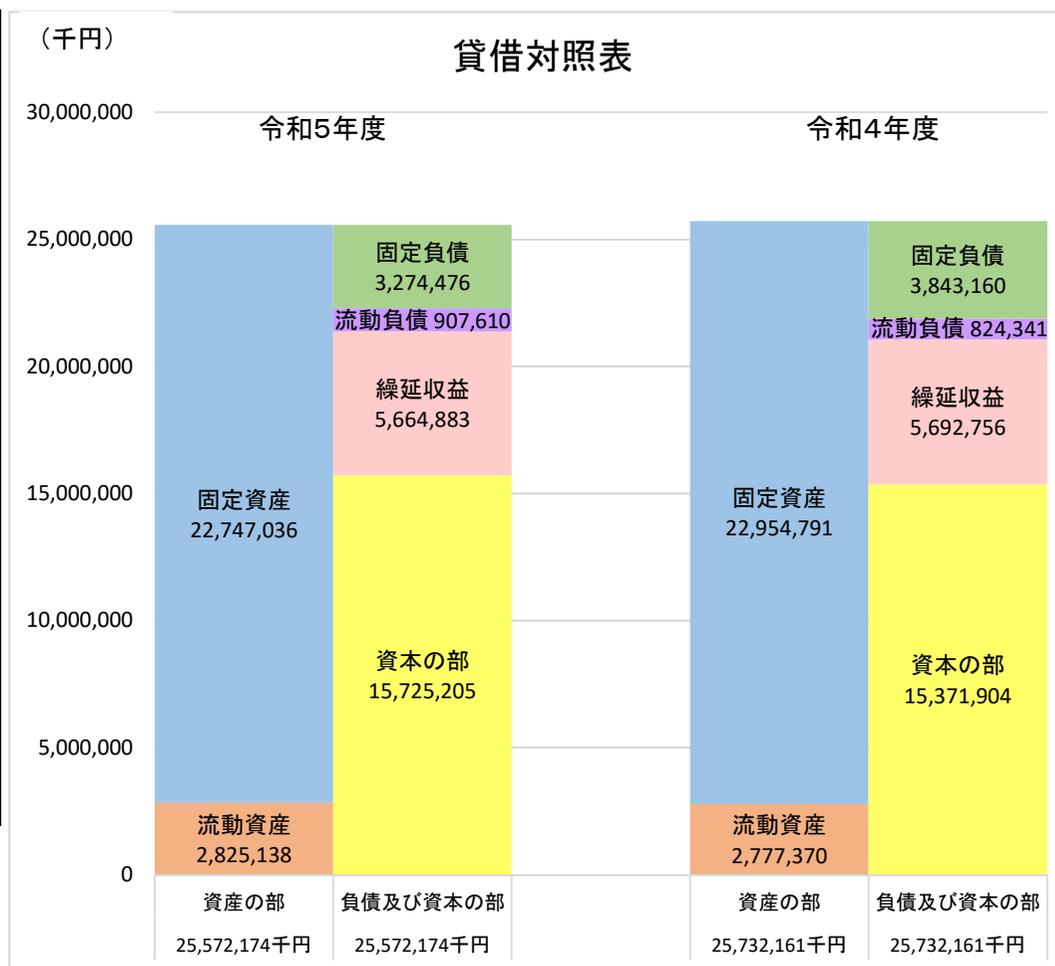
財政状態を表し、保有している財産の状況や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。

(千円)

|         | 令和5年度      | 令和4年度      | 増減        |
|---------|------------|------------|-----------|
| 資産      | 25,572,174 | 25,732,161 | △ 159,987 |
| 固定資産    | 22,747,036 | 22,954,791 | △ 207,755 |
| 流動資産    | 2,825,138  | 2,777,370  | 47,768    |
| うち現金    | 2,693,554  | 2,590,689  | 102,865   |
| 負債      | 9,846,969  | 10,360,257 | △ 513,288 |
| 固定負債    | 3,274,476  | 3,843,160  | △ 568,684 |
| うち企業債   | 3,274,476  | 3,843,160  | △ 568,684 |
| 流動負債    | 907,610    | 824,341    | 83,269    |
| うち企業債   | 568,685    | 584,514    | △ 15,829  |
| 繰延収益    | 5,664,883  | 5,692,756  | △ 27,873  |
| 資本      | 15,725,205 | 15,371,904 | 353,301   |
| 資本金     | 13,297,496 | 12,947,496 | 350,000   |
| 剰余金     | 2,427,709  | 2,424,408  | 3,301     |
| 資本剰余金   | 231,165    | 231,165    | 0         |
| 利益剰余金   | 2,196,544  | 2,193,243  | 3,301     |
| 負債+資本 計 | 25,572,174 | 25,732,161 | △ 159,987 |

令和5年度は企業債の借入を行わず、企業債償還等により負債は5億1,328万8千円減少しました。

また、前年度決算で取り崩した建設改良積立金の組入れにより資本金は3億5,000万円増加しました。



## 5 キャッシュ・フロー計算書（決算書 25ページ）

1年間の現金収入や現金支出を「業務活動」「投資活動」「財務活動」の3種類に区分けして、現金の流れを表します。

業務活動によるキャッシュ・フローでは、主たる業務活動に伴う現金の増減を表します。プラスになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。

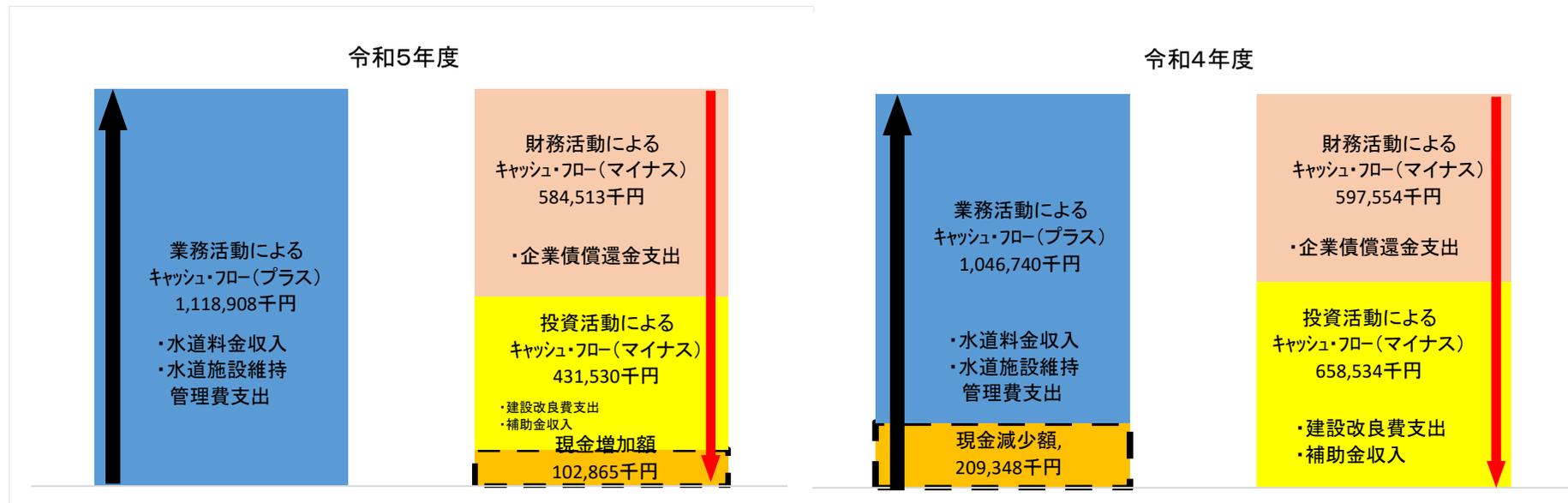
投資活動によるキャッシュ・フローでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常はマイナスとなります。

財務活動によるキャッシュ・フローでは、資金調達や企業債の償還に伴う現金の増減を表します。企業債を償還した場合はマイナス、借入れた場合はプラスとなります。

(千円)

|                  | 令和5年度     | 令和4年度     | 増減        |
|------------------|-----------|-----------|-----------|
| 業務活動によるキャッシュ・フロー | 1,118,908 | 1,046,740 | 72,168    |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 431,530 | △ 658,534 | 227,004   |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 584,513 | △ 597,554 | 13,041    |
| 現金増減額            | 102,865   | △ 209,348 | 312,213   |
| 現金期首残高           | 2,590,689 | 2,800,037 | △ 209,348 |
| 現金期末残高           | 2,693,554 | 2,590,689 | 102,865   |

業務活動による現金は、11億1,890万8千円でプラス領域のため事業活動は順調と言えます。投資活動による現金は、4億3,153万円のマイナスで主要管路整備、配水管布設替工事等の建設改良費を主に支出しました。財務活動による現金は、5億8,451万3千円のマイナスで企業債償還金を支出しました。現金の期末残高は26億9,355万4千円となりました。

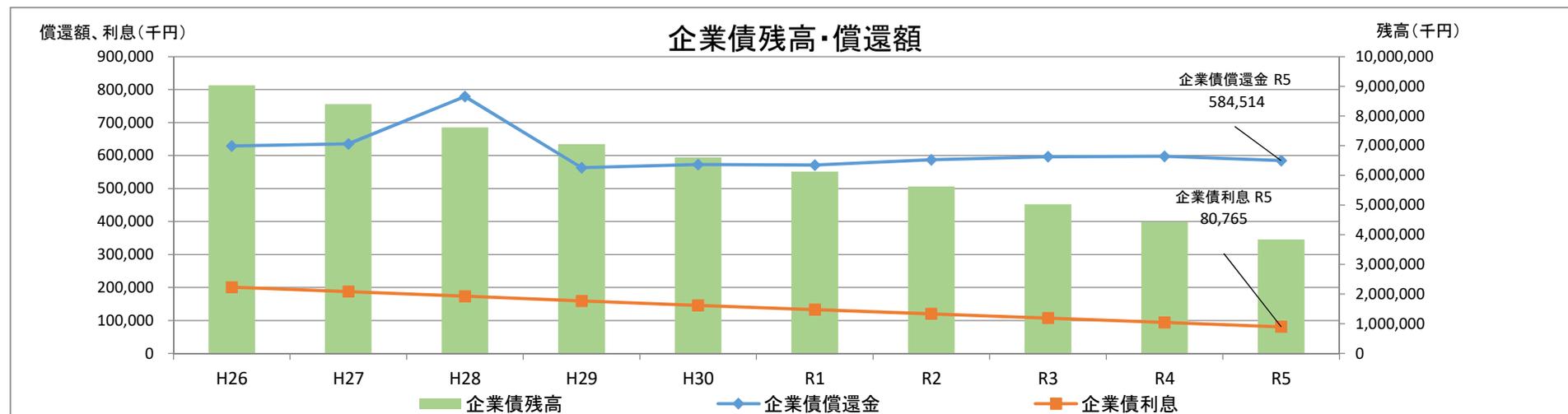


## 6 企業債 (決算書 24ページ、31~32ページ)

(千円)

| 年度    | 令和元年度     | 令和2年度     | 令和3年度     | 令和4年度     | 令和5年度     |
|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 年度末残高 | 6,125,655 | 5,621,639 | 5,025,227 | 4,427,674 | 3,843,160 |
| 借入額   | 93,000    | 83,000    | 0         | 0         | 0         |

5億8,451万3千円の元金償還により、令和5年度末の企業債残高は38億4,316万円となりました。  
また、企業債利息として、8,076万4千円を支払いました。



## 7 利益剰余金 (決算書 6~7ページ)

(千円)

|                     |         |
|---------------------|---------|
| 前年度からの繰越利益剰余金 A     | 907     |
| 当年度変動額 B            | 683,302 |
| 当年度純利益              | 353,302 |
| 積立金の取り崩し            | 330,000 |
| 当年度末処分利益剰余金 (C=A+B) | 684,209 |

利益剰余金処分(案) (千円)

|                      |           |
|----------------------|-----------|
| 建設改良積立金の積立           | △ 354,200 |
| 資本金への組入れ             | △ 330,000 |
| 処分量 計 D              | △ 684,200 |
| (千円)                 |           |
| 翌年度への繰越利益剰余金 (E=C-D) | 9         |

当年度末処分利益剰余金は、前年度繰越額90万7千円と当年度純利益3億5,330万2千円、資本的収支の不足額を補てんするために建設改良積立金を取り崩した3億3千万円の合計6億8,420万9千円となりました。

剰余金の処分は、市議会での認定議決を受けて実行します。

当年度の利益は、後年度の更新事業の財源に充てるため、建設改良積立金へ積立てます。

# 令和5年度に上水道事業で実施した主な取組みについて

## ①主要管路布設事業

### 《配水管布設工事》

災害時の避難所や病院等の重要給水施設と拠点配水池を結ぶ主要管路整備を行い、重要給水施設への給水ルートの耐震化を進めることができました。

管布設状況



応急給水栓設置



●主要管路整備事業 L=3,087m C=369,457千円（穂高・三郷・堀金）

## ②既存管路更新事業

### 《送配水管布設替工事》

老朽化した送・配水管等を地震に強い管種に更新し、漏水の減少及び耐震化を進めています。

管布設状況(DIP(GX))  
豊科1131号線



管布設状況(HPPE)  
三郷0469号線



●既存管路更新事業 L=2,812m C=230,768千円

## ③濁度計設置事業

### 《濁度計設置工事》

災害時、井戸内に発生した濁水が配水池内に混入すると安定的な配水が困難となるおそれがあるため、濁度計を設置し常時監視することにより水質事故を未然に防止することができます。

施工状況



機器調整



中央監視機能増設



●濁度計設置工事設計業務（上原第2水源地） C=3,300千円

## ④漏水調査業務

### 《漏水調査》

配水本管や給水管の漏水調査を、多点相関型漏水探知機（データロガ）や音聴調査により実施しました。発見した漏水箇所については早期に修理を行い、漏水の多い路線については、優先的に管路の布設替を実施していきます。

漏水探知機



音聴調査



漏水箇所

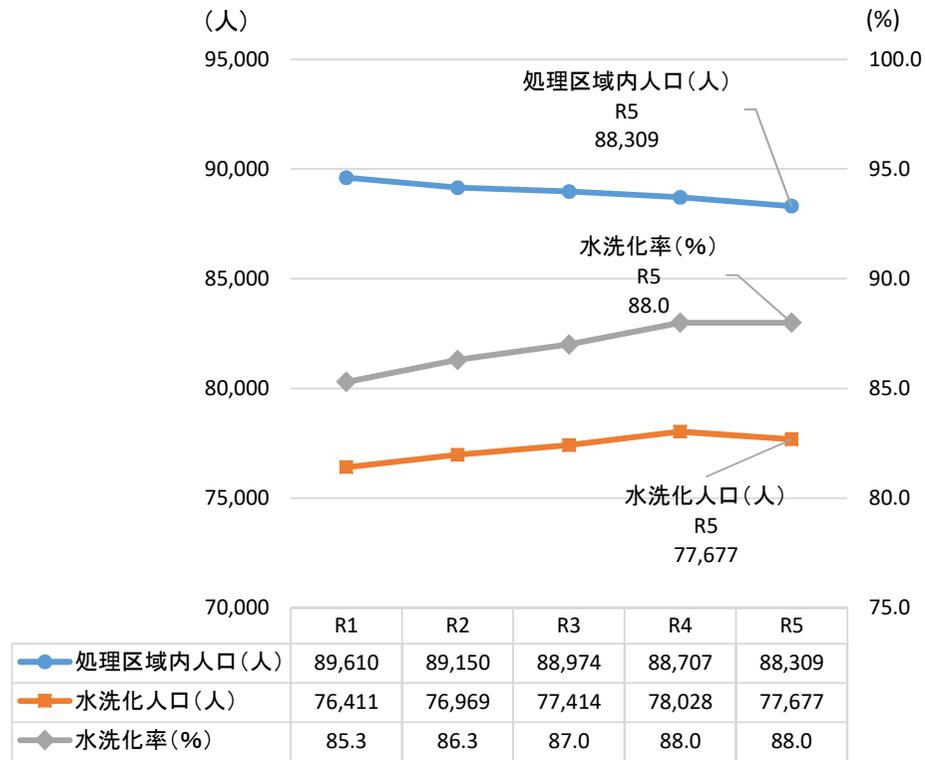


●漏水調査業務委託 明科川西配水系・川東配水系 C=3,520千円

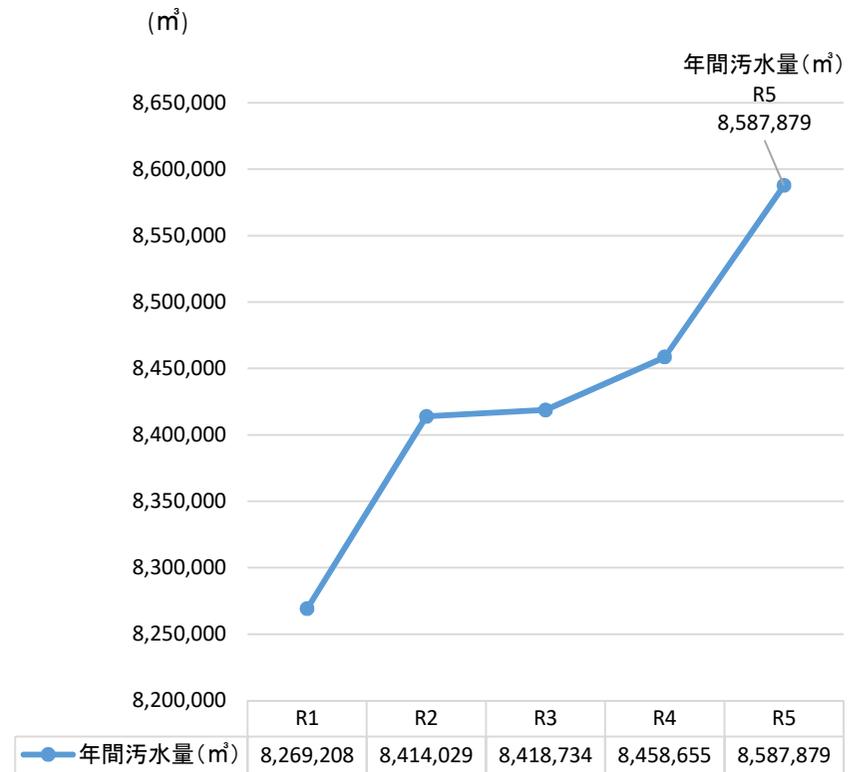
## II 下水道事業決算概要

### 1 業務量 (決算書 48ページ)

処理区域内人口・水洗化人口・水洗化率



年間汚水量



## 2 収益的収支(損益計算書) (決算書 36~37ページ、49ページ、52~55ページ)

使われた水をきれいにして川に流すまでの収支状況です。

下水道がどのくらい使用され、その汚水を処理するまでにどのくらい費用がかかっているのかを表しています。

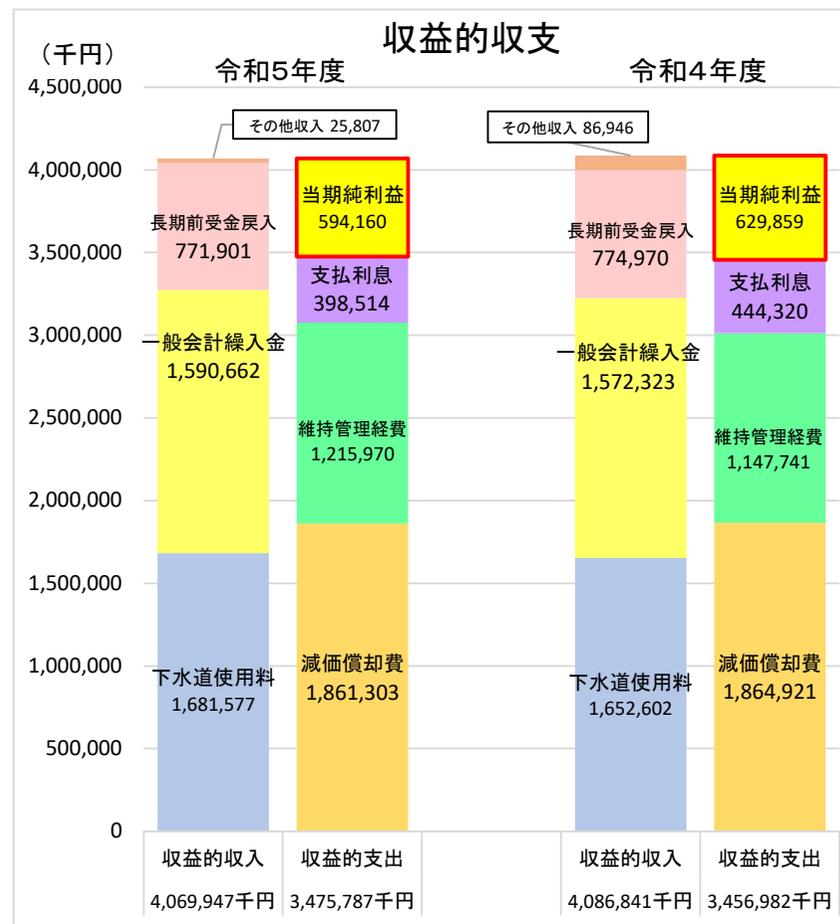
(千円) ※消費税抜き

| 収益的収支     | 令和5年度     | 令和4年度     | 増減       | 増減率      |
|-----------|-----------|-----------|----------|----------|
| 営業収益      | 1,706,292 | 1,680,167 | 26,125   | 1.55%    |
| うち下水道使用料  | 1,681,577 | 1,652,602 | 28,975   | 1.75%    |
| 営業外収益     | 2,363,655 | 2,406,674 | △ 43,019 | △ 1.79%  |
| うち一般会計繰入金 | 1,590,662 | 1,572,323 | 18,339   | 1.17%    |
| 収益計 ①     | 4,069,947 | 4,086,841 | △ 16,894 | △ 0.41%  |
| 営業費用      | 3,076,913 | 3,006,474 | 70,439   | 2.34%    |
| うち減価償却費   | 1,861,303 | 1,864,921 | △ 3,618  | △ 0.19%  |
| 営業外費用     | 398,874   | 450,508   | △ 51,634 | △ 11.46% |
| 費用計 ②     | 3,475,787 | 3,456,982 | 18,805   | 0.54%    |
| 経常損益 ①-②  | 594,160   | 629,859   | △ 35,699 | △ 5.67%  |
| 特別損益      | 0         | 0         | 0        | -        |
| 純損益       | 594,160   | 629,859   | △ 35,699 | △ 5.67%  |

損益では、総収益が40億6,994万7千円で、総費用は34億7,578万7千円となり、純損益は5億9,416万円の黒字で、前年度に比べ3,569万9千円減少となりました。

収益は、流域下水道維持管理負担金返還金の減少などにより、1,689万4千円減少しました。収益合計の約4割は一般会計繰入金が占めています。

費用は、企業債の利息は4,580万6千円減少しましたが、流域下水道維持管理負担金の増加に伴い、1,880万5千円増加しました。



### 3 資本的収支 (決算書 34~35ページ)

下水道施設の整備と企業債償還を行うための収支状況です。

(千円) ※消費税込み

| 資本的収支              |              | 令和5年度       | 令和4年度       | 増減      | 増減率      |
|--------------------|--------------|-------------|-------------|---------|----------|
| 資本的収入 (a)          |              | 1,270,409   | 853,125     | 417,284 | 48.91%   |
|                    | うち資本費平準化債    | 684,000     | 491,000     | 193,000 | 39.31%   |
| 資本的支出 (b)          |              | 2,794,999   | 2,578,804   | 216,195 | 8.38%    |
|                    | うち企業債償還金     | 2,516,588   | 2,501,467   | 15,121  | 0.60%    |
| 資本的収支不足額 (a) - (b) |              | △ 1,524,590 | △ 1,725,679 | 201,089 | △ 11.65% |
| 上記補てん財源            | 消費税資本的収支調整額  | 59,781      | 0           | /       |          |
|                    | 損益勘定留保資金(※1) | 834,809     | 1,094,179   |         |          |
|                    | 減債積立金        | 630,000     | 631,500     |         |          |

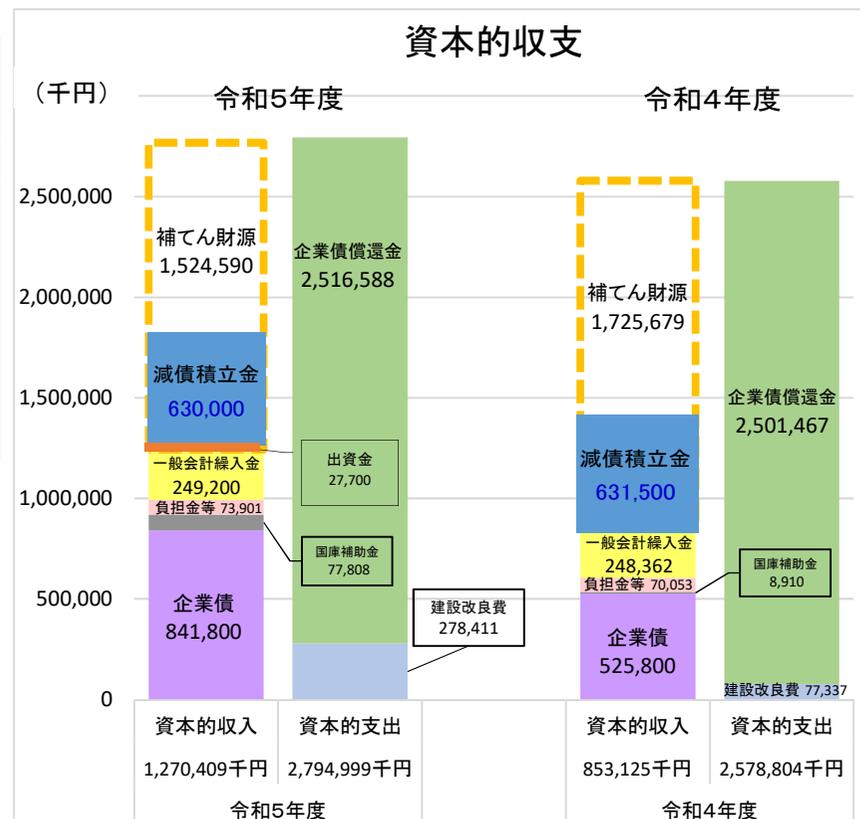
資本的収入は12億7,040万9千円で、企業債などの増加により、4億1,728万4千円増加しました。

資本的支出は27億9,499万9千円で、建設改良費の増加により、2億1,619万5千円増加しました。

収支差引で不足する15億2,459万円は、損益勘定留保資金8億3,480万9千円と減債積立金6億3,000万円の取り崩しなどで補てんしました。

(※1) 損益勘定留保資金

施設の減価償却費などの現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金



### (参考) 一般会計繰入金収入額の比較 (決算書 43ページ、50ページ、52ページ)

(一般会計負担金)

(千円)

|           | 令和5年度     | 令和4年度     | 増減     |
|-----------|-----------|-----------|--------|
| 一般会計繰入金合計 | 1,841,797 | 1,822,729 | 19,068 |
| 収益的収入     | 1,592,597 | 1,574,367 | 18,230 |
| 資本的収入     | 249,200   | 248,362   | 838    |

※収益的収入グラフとの差額は生保減免分繰入金(営業収益)分です。  
(令和5年度 1,935千円、令和4年度 2,044千円)

(千円)

|           |           |
|-----------|-----------|
| 基準内で繰入るもの | 1,317,522 |
| 基準外で繰入るもの | 522,340   |
| 生保減免分繰入金  | 1,935     |
| 上記合計      | 1,841,797 |

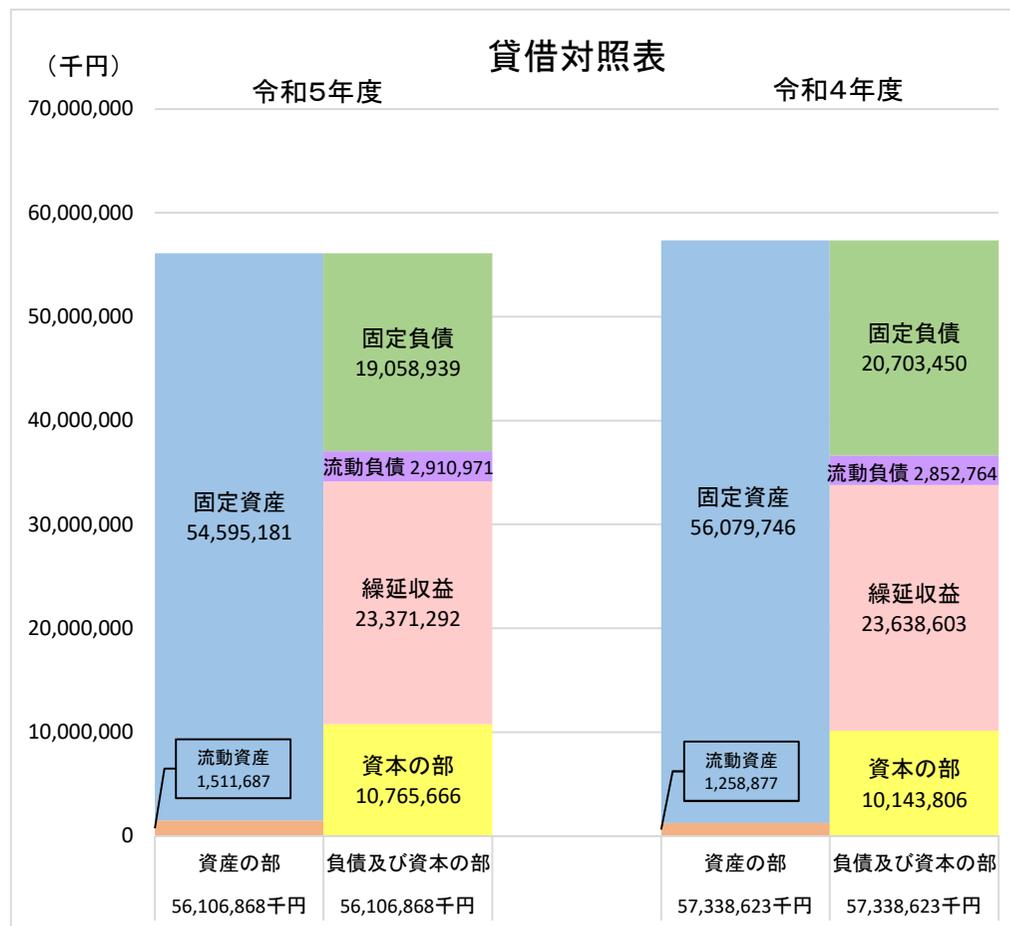
#### 4 貸借対照表 (決算書 40~41ページ)

財政状態を表し、保有している財産や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。

(千円)

|         | 令和5年度      | 令和4年度      | 増減          |
|---------|------------|------------|-------------|
| 資産      | 56,106,868 | 57,338,623 | △ 1,231,755 |
| 固定資産    | 54,595,181 | 56,079,746 | △ 1,484,565 |
| 流動資産    | 1,511,687  | 1,258,877  | 252,810     |
| うち現金    | 1,345,892  | 1,168,491  | 177,401     |
| 負債      | 45,341,202 | 47,194,817 | △ 1,853,615 |
| 固定負債    | 19,058,939 | 20,703,450 | △ 1,644,511 |
| うち企業債   | 19,058,939 | 20,703,450 | △ 1,644,511 |
| 流動負債    | 2,910,971  | 2,852,764  | 58,207      |
| うち企業債   | 2,502,311  | 2,516,588  | △ 14,277    |
| 繰延収益    | 23,371,292 | 23,638,603 | △ 267,311   |
| 資本      | 10,765,666 | 10,143,806 | 621,860     |
| 資本金     | 9,143,973  | 8,484,773  | 659,200     |
| 剰余金     | 1,621,693  | 1,659,033  | △ 37,340    |
| 資本剰余金   | 397,447    | 397,447    | 0           |
| 利益剰余金   | 1,224,246  | 1,261,586  | △ 37,340    |
| 負債+資本 計 | 56,106,868 | 57,338,623 | △ 1,231,755 |

企業債残高が215億6,125万円で、負債合計の約5割を占めています。また、前年度決算で取り崩した減債積立金及び出資金の組入により資本金は6億5,920万円増加しました。



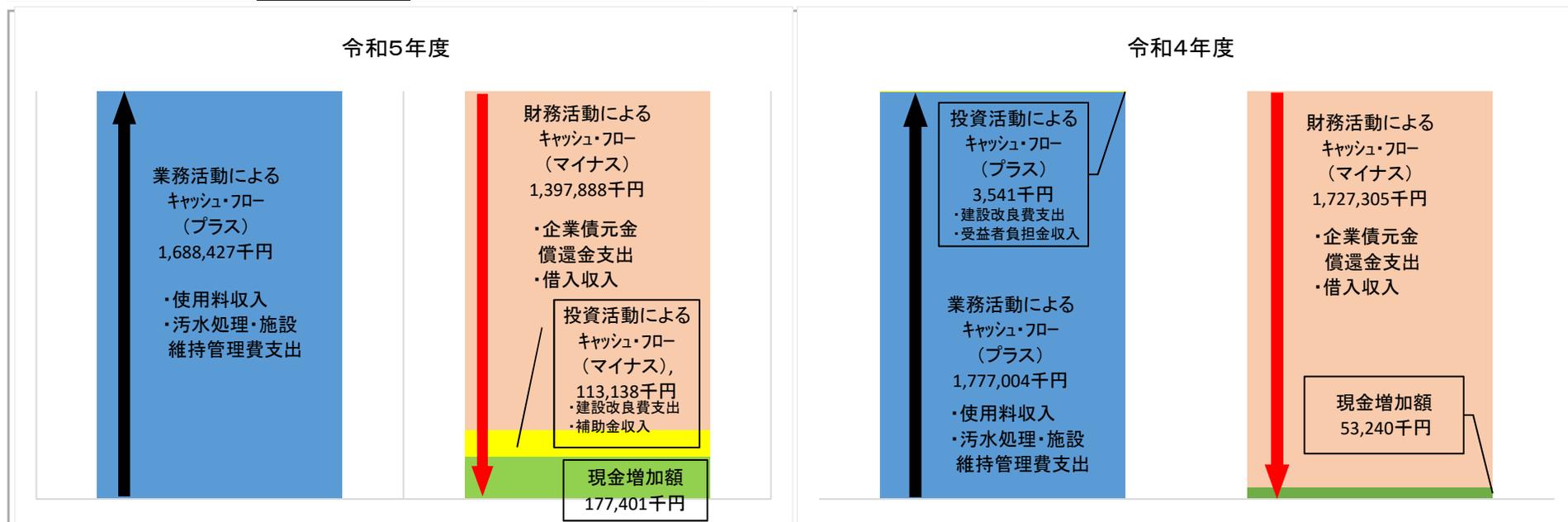
## 5 キャッシュ・フロー計算書 (決算書 51ページ)

1年間の現金収入や現金支出を「業務活動」「投資活動」「財務活動」の3種類に区分けして、現金の流れを表します。  
 業務活動によるキャッシュ・フローでは、主たる業務活動に伴う現金の増減を表します。プラスになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。  
 投資活動によるキャッシュ・フローでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常はマイナスとなります。  
 財務活動によるキャッシュ・フローでは、資金調達や企業債の償還に伴う現金の増減を表します。企業債を償還した場合はマイナス、借入れた場合はプラスとなります。

(千円)

|                  | 令和5年度       | 令和4年度       | 増減        |
|------------------|-------------|-------------|-----------|
| 業務活動によるキャッシュ・フロー | 1,688,427   | 1,777,004   | △ 88,577  |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 113,138   | 3,541       | △ 116,679 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 1,397,888 | △ 1,727,305 | 329,417   |
| 現金増減額            | 177,401     | 53,240      | 124,161   |
| 現金期首残高           | 1,168,491   | 1,115,251   | 53,240    |
| 現金期末残高           | 1,345,892   | 1,168,491   | 177,401   |

業務活動による現金は、16億8,842万8千円で順調な経営となっています。  
 投資活動による現金は、建設改良費の増加により1億1,313万8千円のマイナスとなりました。財務活動による現金は、企業債の償還などにより13億9,788万8千円のマイナスとなりました。現金の期末残高は、13億4,589万2千円で、1億7,740万2千円の増となりました。

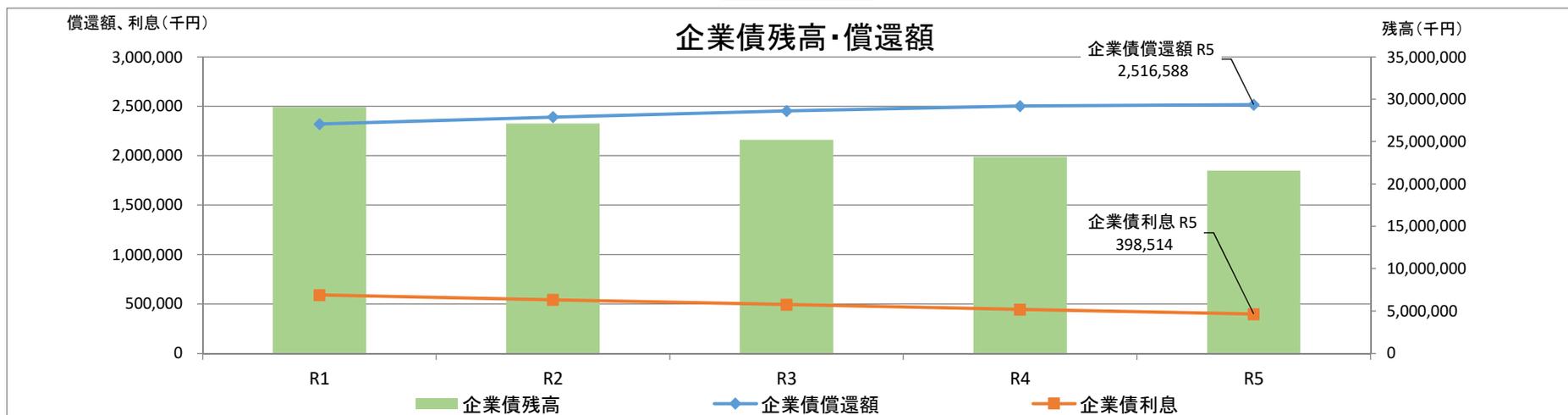


## 6 企業債（決算書 37ページ、50ページ、55ページ、57～64ページ）

(千円)

| 年度        | 令和元年度      | 令和2年度      | 令和3年度      | 令和4年度      | 令和5年度      |
|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 年度末残高     | 29,060,390 | 27,150,353 | 25,195,705 | 23,220,038 | 21,561,250 |
| 借入額       | 418,100    | 480,600    | 498,800    | 525,800    | 857,800    |
| うち資本費平準化債 | 362,100    | 362,100    | 400,000    | 491,000    | 684,000    |

令和5年度は、下水道事業債1億7,380万円と資本費平準化債6億8,400万円を借り入れました。  
一方で、25億1,658万7千円の元金償還により、年度末の企業債残高は215億6,125万円となりました。  
また、企業債利息として3億9,851万4千円を支払いました。



## 7 利益剰余金（決算書 38～39ページ）

(千円)

|                     |           |
|---------------------|-----------|
| 前年度からの繰越利益剰余金 A     | 86        |
| 当年度変動額 B            | 1,224,160 |
| 当年度純利益              | 594,160   |
| 積立金の取り崩し            | 630,000   |
| 当年度末処分利益剰余金 (C=A+B) | 1,224,246 |

利益剰余金処分 (案)

(千円)

|          |             |
|----------|-------------|
| 減債積立金の積立 | △ 594,200   |
| 資本金への組入れ | △ 630,000   |
| 処分数 計 D  | △ 1,224,200 |

(千円)

|                      |    |
|----------------------|----|
| 翌年度への繰越利益剰余金 (E=C-D) | 46 |
|----------------------|----|

当年度末処分利益剰余金は、前年度繰越額8万6千円と当年度純利益5億9,416万円、資本的収支の不足額を補てんするために減債積立金を取り崩した6億3,000万円の合計12億2,424万6千円となりました。

剰余金の処分は、市議会での認定議決を受けて実行します。

当年度の利益は、企業債償還の財源に充てるため、減債積立金へ積立てます。

令和5年度に下水道事業で実施した主な取組みについて

安全で安心な暮らしの実現(計画的な維持管理)

◀ 下水道施設維持管理 ▶

処理場5施設及びマンホールポンプ場162箇所、管きょ856kmの適切な運転管理と施設の維持に取り組み水環境の保全に努めました。



管路自走式カメラ調査  
L=1,570m実施



管口カメラ調査 巡視点検  
161箇所実施 L=71,720m実施



計器類確認  
脱水ケーキ搬出作業



汚泥処分量1,210m<sup>3</sup> 脱水ケーキ処分量322t

施設維持管理作業状況

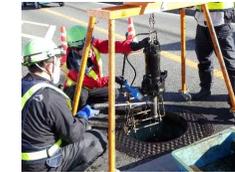


ポンプ稼働状況確認



放流水水質確認

防災訓練実施状況 (停電時のマンホールポンプ復旧訓練)



実施日: 令和5年11月7日 参加人数9名

●維持管理費 C=189,778千円

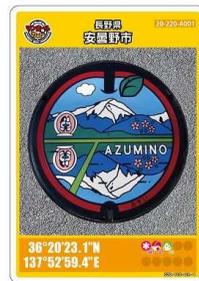
委託費: 153,545千円 汚泥処分費: 20,066千円 修繕費: 16,167千円

健全で持続可能な事業運営(広聴・広報手段の拡充)

◀ マンホールカード『みずかがみ(水鏡)』 ▶

マンホールカードは、下水道を気に留めていなかった方への関心への入口として、また、既にマンホール蓋に関心を寄せていただいている方には、蓋の先にある下水道の大切さを理解いただくことを目的に作成しました。

このカードは、平日は下水道課にて、休祝日は庁舎管理室にて無料配布しています。



●印刷製本費 C=44千円

豊かな自然環境を守る(下水道の効率的な整備)

◀ 汚水処理の広域化・共同化の推進 ▶

下水道サービスを継続的かつ安定的に提供するため、「汚水処理区域の広域化」、「汚水処理施設の共同化」を推進し、効率的かつ効果的な事業運営に向けて取り組んでいます。

令和5年度は、以下の管路工事等を行いました。

- ① 接続管 L=763m
- ② 接続管 L=3,822m 合計 ΣL=4,585m

委託業務  
接続管路詳細設計業務  
地質調査業務  
工事施工監理業務



●委託費 C=54,633千円

●管路工事 C=438,878千円